



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表) いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

8020達成率御存知ですか？

小児歯科 科長 島田 幸恵

8020運動は、「80歳になっても20本以上の自分の歯を保とう」と日本歯科医師会が平成元年に啓発運動を開始しました。「生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるように」という願いを含めたものです。平成元年当時の達成率は7%で、80歳以上の残存歯数は平均僅か4~5本しかありませんでした。平成28年の厚生労働省の歯科実態調査では、8020の達成率51.2%となり、2人に1人は20本歯を有していることとなります。8020運動を開始した当初よりかなり増加したといえます。しかし、同調査のう蝕有病者率では、表のように加齢とともにう蝕有病者率が高くなってきています。

う蝕有病者率

5~ 9歳	10.0%
10~14歳	37.4%
15~19歳	63.7%
20~24歳	89.9%
25~34歳	96.2%

平成28年度厚生労働省 歯科実態調査より

保護者の管理がある間は、う蝕がコントロールされていますが、徐々に保護者から自立すると、う蝕の発生率が高く、学校歯科健診がない年齢になると90%以上の人にう蝕があることとなります。妊産婦を含めて生まれてから亡くなるまでの全てのライフステージで健康な歯を保つために「マイナス1歳からの予防歯科」が始まっています。お子さんの歯は、妊娠7~10週ころにでき始めます。お子さんの歯を丈夫で健康な歯にするためには、お母さんのお腹の中にいる時から始まって

いるのです。お子さんのう蝕の原因(ミュータンス菌)は養育者から伝播するといわれています。養育者のお口の中にミュータンス菌が多いと伝播しやすいので、できれば、妊娠前にご両親とも



う蝕や歯周炎の治療を行い、ミュータンス菌などの住処(すみか)を減らしておくことが大切です。また、お子さんへの食べ物の口移しや、歯ブラシの共有は避けた方がよいです。

我々小児歯科医は、口腔を健康に保つために、歯磨き指導や生活指導を含めた口腔衛生指導を通じて、赤ちゃんの時から保護者へお子さんの口腔管理指導、小児の歯磨きの自立サポート、小児歯科を卒業するころには、自分で口腔を管理するためにおやつや飲み物を含めた生活リズムを自律(セルフコントロール)できるようにサポートしていきたいと思っております。我々は、お子さんの歯科治療を行っていますが、将来の超高齢社会に備えるには、この時期からの口腔ケアが非常に重要と考えています。

最近の研究では、歯周炎と脳梗塞や心筋梗塞などの全身疾患との関連性も報告されています。小児期を通じて口腔の健康の大切さを啓発し、生涯を通じて自分の歯で食べることで、健康で、高い生活の質(QOL: quality of life)を得、いつの日か8020達成率が100%になることを願うばかりです。



歯科病院に入ると、様々な診療科があり初めて来院された方はどこの診療科を受診したらよいかわからなくなる方もいらっしゃると思います。小児歯科は、小児に関してほぼすべての治療を行っています。対象は赤ちゃんから基本15歳までの方を対象とし、これらの治療を、お子さんの成長・発育に合わせて治療を行っています。

小児歯科の診療内容は、

1.予防歯科:う蝕や歯肉炎にならないように予防していくため、歯科医院で歯を丈夫にするためにフッ化物歯面塗布や歯の溝を埋めう蝕にしにくくする予防充填(シーラント)やPMTGという機械を用いてプロフェッショナルケアを行ってくとともに、セルフケア(家での口腔ケアの仕方)の指導を行っています。基本、治療ではないので保険治療の対象とはならないことも多いです。必要に応じて、フッ化物洗口法(基本ブクブクうがいができる4歳以上のお子さんが対象となります)や、歯面コーティング剤を用いてう蝕を予防する最新の予防法も行っています。

2.保存治療:う蝕の治療(う蝕の穴を詰めたり、いわゆる神経の治療を行います。)コンポジットレジンといって白い詰め物や、銀歯を被せたり、大きなう蝕で歯髄(神経)に至った場合は、根の治療(歯内療法)を行います。

3.外科治療:保存不可能な歯の抜歯や、外傷で脱臼した歯の固定や小児に関する顎の病気(過剰歯・顎骨嚢胞・顎骨腫瘍など)の摘出術を行い、歯の萌出誘導などを行います。

4.咬合誘導処置:抜歯した乳歯の隣の歯が動かないように、保隙装置といって永久歯が生えるまで入れる装置(入れ歯タイプや針金のタイプがあります)を装着します。

5.摂食:嚥下指導:障害のあるお子さんや、食べ方に問題のあるお子さんの指導を行っています。小児歯科で行っている摂食・嚥下指導は、専門の

先生が月に1週間指導に来ていただいておりますので、必ず予約を取って来院して下さい。また、ご家庭で召し上がっているものをご持参ください。

昭和大学関連病院の入院患者さんの口腔ケアや、マタニティー歯科・赤ちゃん歯科・スポーツマウスガードを作製するスポーツ歯科を行っています。このように小児歯科は成長・発育期のお子さんの管理を行い専門性が高いため国で専門医として認められている5つのうちの1つとなっています。

小児歯科に関しては、このように様々な予防方法や歯科治療が多岐にあるので、担当医にご相談ください。



3歳児のパノラマエックス線写真

3歳のパノラマエックス線写真です。顎の中で永久歯が作られているので、乳歯にう蝕ができると、その下にある永久歯に影響があります。乳歯をう蝕にしないようにして健全な永久歯列になるようにしていくことが非常に大切です。



小児歯科スタッフ

診療の流れ: 歯の白さを意識したことはありますか？

美容歯科 科長 真鍋 篤史

近年8020運動等により健康なお口に対する意識が高まっています。それに伴い自分の歯に対する美意識つまり歯に対する審美的欲求は年々増加してきています。

昭和大学歯科病院では2005年から審美歯科に重きを置いた「美容歯科」という診療科を開設しました。そして2016年からホワイトニングを専門とする「ホワイトニング外来」を併設しています。ホワイトニング外来の特徴としましては、専門の歯科医師のみならず、日本歯科審美学会で認定されたホワイトニングコーディネーターの資格を有する歯科衛生士が中心的役割を担いチーム医療としてホワイトニングに取り組んでいます。

今回はホワイトニング外来における診療の流れについて紹介していきます。

まずホワイトニング外来を受診されましたら、問診を行います。問診では歯の色調に影響を与える可能性がある生活習慣及び嗜好品、女性の患者さんには妊娠の可能性をお聞きします。妊娠している方、授乳中の方には施術していません。又、生活のリズム、お仕事の忙しさ等も伺います。

次に口腔内診査を行います。清掃状態、ステインや歯石の付着状況等の口腔衛生状態のチェック、う蝕や知覚過敏の有無を診査します。

歯面清掃を行った後、現在の歯の色調評価を行いコンサルテーションに移ります。

コンサルテーションでは、まず、測色、エックス線写真撮影を行います。それにより現在の自身の歯の状態を患者さんに把握して頂きます。

そして術式(オフィスホワイトニング or ホームホワイトニング)、それぞれの費用、期間、注意事項、メリット・デメリットについて説明します。

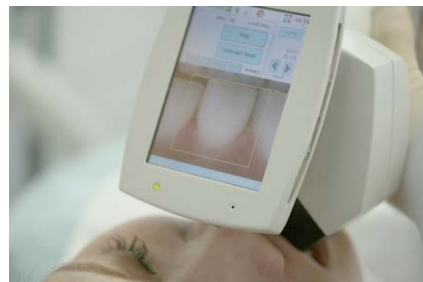
患者さんはそれぞれの説明を受けた後、歯科病院で行うオフィスホワイトニングか自宅で行うホームホワイトニング、又は併せて行うデュアルホワイトニングのいずれかを選択します。

術式が決定したら術前の口腔内写真の撮影を行い、ホームホワイトニングを行う場合にはトレー用の型取りを行います。

ホワイトニングの際に起こりやすい副作用として知覚過敏が挙げられますが、その場合は専門の歯科医師が随時対応します。

さらに必要があればホワイトニング後の白さに合わせた詰め物、被せ物の治療も行っております。ホワイトニングにより白くなった歯は時間の経過や生活習慣により後戻りが生じる可能性がありますので、終了後も半年に一度のクリーニング、一年に一度のタッチアップホワイトニングを、白さを保つために推奨しています。

ホワイトニングを希望される方、自分の歯の色に関して専門家への相談を希望される方は、4階美容歯科までご連絡下さい。



歯の色の測定



ホワイトニング前



ホワイトニング後

放射線室 紹介

放射線室 技師長 石田 秀樹

「放射線室」と聞いてピン！と来ない方がいるかもしれません。昔から長い間、親しまれてきた呼び名はレントゲン検査室でした。アナログX線写真(フィルム)時代からデジタル画像情報(モニタ診断)時代へ変化した現在では、X線検査における画像情報取扱いのプロフェッショナルとして当院放射線室の役割がますます増えています。

放射線室は診療放射線技師5名と受付事務員で構成され、放射線科歯科医師と密接な連携をとりながら患者さんのX線写真(画像情報)を確実に、そして安全に院内全診療科へ配信する重要な役割を担っております。

主な業務は、放射線技術の専門知識を生かした目的に応じたX線撮影、検査の説明、放射線機器管理、放射線被ばく管理、画像情報管理、三次元画像の作成や読影の補助などを行っています。最新機器による先端技術を導入し、できるだけ少ない放射線量で検査を行っているので安心してX線検査を受けてください。

歯科領域に特化したX線撮影として、歯をより詳しく見るデンタル撮影、顎全体を見るパノラマ撮影や矯正診断に用いられる頭部X線規格撮影(セ

ファログラフィ)があります。その他に、嚥下障害を評価する透視装置を用いた嚥下造影検査、多断面から顎骨と歯の関係を評価する歯科専用CT検査、腫瘍・炎症の評価に使用される全身用CT造影検査、歯科用インプラントの術前評価に用いられるCT検査などがあります。

院外からのX線検査も積極的に受け入れていて、地域医療連携、附属病院間連携に力を注いでいます。地域医療機関との連携では、院外の歯科医院から歯科専用CT検査、インプラント用CT検査、一般撮影(パノラマ撮影、デンタル撮影、頭部X線規格撮影等)の紹介受け入れを随時行っています。

放射線室の基本方針として患者さんに安心して検査を受けていただけるように、丁寧な説明を心掛けています。歯科病院のX線検査について気になることがありましたら、放射線室スタッフが誠心誠意をもってお応えしますので、お気軽にお声かけください。



放射線室スタッフ

口腔ケアセンター周術期講習会報告

平成30年2月7日(水)の20:00~21:00旗の台キャンパス1号館7階講堂にて標記の講習会が行なわれました。今回の講師は昭和大学医学部外科学講座心臓血管外科学部門准教授の尾本正先生にお願いして『歯科治療と感染性心内膜炎』についての講演を行いました。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司



口腔ケアセンター周術期講習会の様子

編集後記

今、平昌オリンピック真っ只中！日本選手もとても頑張っており、皆さんも毎日応援していると思います。今回出場したカーリングの選手が昭和大学スポーツ運動科学研究所(昭和大学藤が丘リハビリテーション病院内)に来院しており、当然歯科もスポーツ歯科外来でサポートしています。良い結果が出るよう応援しています。あと残すところ1週間。頑張れニッポン！ (M.N)

昭和大学歯科病院からのお知らせ

●平成30年1月より、診療時間に変更となりました。

診療時間 8:30~17:00(月曜日~土曜日)
初診受付 8:30~11:30、13:00~15:00

※診療科により時間が異なります、詳細はお問い合わせください。

昭和大学歯科病院 地域歯科医療連携室 電話 03-5498-1954(直通)